



ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

# News Letter



Vol. 21  
DECEMBER  
2025

## ご報告

## 次世代リーダー育成企画を開催しました

**日時** | 令和7年10月2日(木) 14:00~16:00  
**場所** | 山梨大学 大村智記念学術館 大村記念ホール (Teams同時配信)  
**講師** | 依田 恵子 氏 (花王株式会社 上席主任研究員)  
**タイトル** | 「化粧品開発における研究者としてのやりがいとキャリア探求」

**参加者** | 山梨大学および山梨県立大学の教職員・学生、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員 合計77名

**内容** | 本講演会は、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業の一環として、生命環境学部との共催により実施しました。

講演ではまず、依田氏が取り組まれてきた具体的な研究内容について詳しくご紹介いただき、研究者としての視点から、製品開発の裏側にある技術的な工夫や課題への取り組みについて、豊富な事例を交えてお話しいただきました。また、ご自身のキャリアの転機についても触れられ、ご自身の特性を見つめ直した結果、マネジメントではなくスペシャリストとして技術探求に専念する道を選ばれたこと、現在は研究室全体を俯瞰しながら環境整備、若手育成、技術的助言、さらには社外活動にも積極的に取り組まれていることなど、幅広い視点からご講演いただきました。

**感想** | 「企業で研究されている方の話を聞く機会はありませんでした。良い経験になりました。」「入社から現在に至るまでのキャリアを聞くことで、自身のキャリアプランの選択肢が増えたと感じました。」などの感想をいただきました。



## ご報告

## ランチミーティングを開催しました

山梨大学限定

**日時** | 令和7年10月21日(火) 12:15~12:45  
**場所** | 男女共同参画推進室 交流室 (B1号館331号室) (Teams同時配信)  
**タイトル** | 山梨大学教職員向け 結婚・出産・育児・介護に関する支援制度

**参加者** | 山梨大学教職員 15名

**内容** | この会は、学内の教職員同士、気軽に情報交換やコミュニケーションができる機会を作れたらと企画したものです。会場参加者はランチ持参で、またオンライン参加者は自席でランチをとりながらの会となりました。今回は「結婚・出産・育児・介護に関する支援制度」をテーマに、人事課職員から、本学で受けられる各支援制度の内容や、相談窓口についての説明がありました。また質疑応答では、会場参加者、オンライン参加者ともに質問があり、和気あいあいと充実した時間を過ごすことができました。

**感想** | 参加者からは、「活用できる制度を知ることができ良かった。」「短時間に制度をわかりやすく説明していただきよかった。」などの感想が寄せられました。また今後ランチミーティングで実施してほしい内容や取り上げてほしい話題については、「同じような職種の方との繋がりが持たにくいので、そういった繋がりを持てる機会があったらいいと思う。医学部の方でも開催して欲しい。」「テーマ別に集まって、楽しみつつエンパワーしあえるランチョンがあるといいなと思う。」などの意見をいただきました。



※学内ユーザー限定公開。

## ご報告

男女共同参画学術研究奨励賞表彰式を  
開催しました

山梨大学限定

日時 | 令和7年12月5日 (金) 14:00～14:30  
場所 | 山梨大学 大村智記念学術館 大村記念ホール

本賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰することにより、研究者の研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画を促進する目的で、平成28年に創設されました。

第10回目となる今回は、中村和彦学長より受賞者へ「この賞を通じて、本学の女性研究者の皆さんの活躍が広く社会に認知され、その地位向上や後進育成につながることを心より期待しております。」との激励の言葉とともに、表彰状と花束が授与されました。

奨励賞で評価された研究の題目は、以下のとおりです。

## 【優秀賞】秋山 麻実 教授

「ケア」「対話」「ジェンダー」の視点の導入による  
保育・教育・子ども支援のエンパワメント

## 【奨励賞】Raya Sunayana さん

アジア諸国における下水疫学調査の高度化

## 優秀賞



教育学域教育学系  
幼小発達教育講座  
秋山 麻実 教授

## 奨励賞



大学院医工農学総合教育部  
工学専攻 博士課程3年(推薦当時)  
Raya Sunayana さん



## ご報告

## 女性研究者と学長との懇談会を開催しました

山梨大学限定

日時 | 令和7年12月5日 (金) 14:40～16:00  
場所 | 山梨大学 大村智記念学術館 大村記念ホール

学術研究奨励賞表彰式に続いて、「女性研究者と中村学長との懇談会」が開催され、受賞者の秋山教授に加え、女性研究者6名が参加しました。

懇談会では、今回のテーマである男女共同参画推進室が実施するキャリアアシスタント (CA) 制度について、制度の利用による効果や今後の活用等に関する意見が交わされました。また、女性研究者を取り巻く研究環境についても話し合われ、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換の場となりました。



中村 和彦 学長



参加者からは「CAの学生に研究を手伝ってもらったことで、自分の研究や生活に余裕が持てただけではなく、学生にとっても進路を考えるうえで大いに参考となったようだ。」「CAを経験した学生で、実際に研究者の道に進んだ者が何名もいる。」「研究者・学生の双方にとって、大変メリットの高い制度だ。」などの意見をいただきました。





## 特集

シミックグループ・株式会社はくばく  
男性社員の育休等取得者インタビュー

前号Vol.20では、山梨大学の男性教職員2名のインタビューをお届けしました。第2弾として今回は、ダイバーシティ事業の共同実施機関である、シミックグループおよび株式会社はくばくの男性社員から、育休等を取得した感想を聞きました。

シミック株式会社  
臨床事業スペシャリティケア本部2部  
大野 翼 さん

◆令和7年10月時点

**Q. お子様は現在おいくつですか。**

**A.** 0歳5ヶ月です。

**Q. 取得した育休との種類・期間等を教えてください。**

**A.** 出産当日に配偶者出産休暇を1日、その1週間後から出生時育児休業（産後パパ育休）を約3週間取得しました。

**Q. 職場は育休等を取得しやすい雰囲気でしたか。**

**A.** 私の会社は男性でも育休を取得している方が多く、取得について言い出しにくいということは全くありませんでした。上司に相談した際も「大切な時期だから、しっかり休んできて」と快く背中を押してくれました。育児を大切にしようという風土が会社に根付いているので、周囲も温かく協力してくれて、復職も想像よりスムーズにできました。

**Q. 育休等を取得することについて家族の反応は？**

**A.** 妻からは「一緒に子育てしてくれるのが心強い。」と言われました。両親は「自分たちの時代には男性が育休を取得するなんて考えられなかったから、本当にありがたいね。」と感心していました。

株式会社はくばく  
営業本部 広域流通部

三井 溪 さん

◆令和7年10月時点

**Q. お子様は現在おいくつですか。**

**A.** 0歳2ヶ月です。

**Q. 取得した育休等の種類を教えてください。**

**A.** 出生時育児休業（産後パパ育休）を合計3週間取得しました。まず1週間の休暇を取得し、在宅勤務を1週間はさんで、次に2週間の休暇というように分割して取得しました。

**Q. 育休等を取得しようと思ったきっかけを教えてください。**

**A.** 産まれたばかりの我が子に向き合う時間を作りたいからです。また妻の支えになりたいと思いました。

**Q. 育休中の過ごし方は？**

**A.** 料理・洗濯・掃除など家事を中心に妻をサポートしました。もちろん、我が子もしっかり向き合いました。

**Q. 育休中の過ごし方は？**

**A.** 妻は産後の体調が万全とは言えないが続いたので、料理・洗濯・買い物などはできるだけ私が引き受け、わずかな時間でも妻が休めるように、と二人三脚で乗り切る毎日でした。

**Q. 制度を利用して良かった点は？**

**A.** 「育児の大変さとやりがいの両方を直接体験できたこと」です。改めて妻の頑張りや、世の中のお母さん・お父さんのすごさを実感しました。また、我が子の小さな変化や成長に気づくたびに感動して、育児の楽しさや幸せをしみじみ感じました。育児の大変さとやりがいを実感したことで、復職後も妻への感謝や子どもへの気持ちがこれまで以上に深くなりました。

**Q. これから取得を考えているかたに一言。**

**A.** 育休は、子どもと過ごせる特別な期間です。子どもと向き合う時間を持つことで得られること、感じるものが本当にたくさんあります。また、パートナーにとっても心強いと思いますし、その後の家族の絆にもつながると感じます。ぜひ積極的に制度を活用して、育児の時間を楽しんでいただきたいと思います。

**Q. 職場は育休等を取得しやすい雰囲気でしたか。**

**A.** 時代の流れもあり、取得しやすい雰囲気でした。私の部署では、男性の育休取得は前例がありませんでしたが、同じ営業部門の先輩や同期が以前に取得していたため、後押しになりました。上司に相談した際は「しっかり取って家族に向き合って」と送り出してくれました。

**Q. 制度を利用して良かった点を教えてください。**

**A.** 子どもの日々の成長をしっかりとし守ることができ、貴重な新生児期と一緒に過ごせてうれしかったです。

**Q. また制度を利用したいと思いますか。**

**A.** 利用します！

**Q. これから取得を考えているかたに一言。**

**A.** 私の場合、育休中も仕事のことが頭の片隅にあったため、完全に心を切り替えることは難しかったです。そうならないためには、しっかりと引き継ぎをおこなうことが大切だと思います。



## ご報告

## 山梨大学は「山梨えるみん」に認定されました



山梨大学は、職場環境における女性活躍や男性の育児参画推進が評価され、令和7年10月「山梨えるみん」に認定されました。

「山梨えるみん」は、女性の活躍推進や男性の育児参画に積極的に取り組む企業を応援し、国の制度である「えるぼし」や「くるみん」認定取得の足がかりとなるよう、山梨県が設けた認定制度です。認定ロゴマークを活用することで、女性の活躍が進んでいる企業として、企業イメージの向上や優秀な人材確保につながることが期待されます。

※株式会社くばくは、令和3年から「山梨えるみん」の認定を受けています。

「山梨えるみん」ロゴマークは、山梨大学「大学運営DB」に格納しています。使用にあたり、届け出は必要ありません。ホームページや広報誌、名刺等に積極的に活用ください。



詳しくは[ホームページ](#)をご覧ください。

## お知らせ

女性研究者に対する論文投稿費および英文校閲費  
支援制度の利用者を募集しています

山梨大学限定

「女性研究者に対する論文投稿費と英文校閲費支援制度」は、本学に所属する女性研究者の論文作成に伴う経済的負担の支援を行うことを目的とするものです。

**支援対象者** | 本学に在職する女性研究者のうち、筆頭論者として論文を作成する者とします。

**助成額等** | 論文1編あたり上限5万円とし、助成金の用途は論文投稿費（英文校閲費含む）とします。

なお、一人が応募できる件数は論文1篇および1年につき1件までとします。

**募集期間** | 令和8年1月30日（金）必着

**助成金の執行可能期間** | 令和8年2月末日



予算の状況により助成額が減額、または募集を締め切る場合があります。

詳しくは[ホームページ](#)をご覧ください。

## お知らせ

## 男女共同参画推進室 交流室を利用しませんか

山梨大学限定

男女共同参画推進室では、本学に在籍する学生・教職員であれば誰でも利用できる交流室を設置しています。研究者・職員・学生同士の情報交換や交流、ライフイベントに関する情報の収集と交換の場として利用可能です。交流室の一角には、体調がすぐれない等の理由で一時的に休養が必要な方のため、女性専用の休憩スペースを設けています。（予約制）

こちらの[ホームページ](#)から  
空室状況を確認できます。  
予約の際は男女共同参画推進室に  
お電話ください。



備え付け設備  
・大型モニター  
・ブルーレイ  
・電子レンジ  
・水道（シンク）など



交流室  
B1号館3階 331号室



交流室内の休憩スペース  
※女性限定

## 国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37 TEL: 055-220-8350 FAX: 055-220-8351  
E-mail: danjo@yamanashi.ac.jp HP: <https://danjo.yamanashi.ac.jp/diver/>

